

薬用作物産地支援 栽培技術研修 北海道会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： 駅前交流プラザ よろーな 会議室 3（北海道名寄市東1条南7丁目1-10）

実施時期： 9月15日(木)～16日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月15日 (木)	13:10-13:30 (20分)	13:00現地集合 場所：名寄駅 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30-15:00 (90分)	〔講義・現地研修〕 薬用作物の栽培技術等 について	「国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター北海道研究部」における現地研修で、薬用作物の特徴、種子・種苗の供給、品質評価、研究開発の状況等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	林 茂樹 ほか	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養 研究所 薬用植物資源研究セン ター北海道研究部
	15:00-15:40 (40分)	移動(バス利用) →土別市		事務局	
	15:40-16:10 (30分)	〔現地研修〕	薬用ハトムギ「北のはと」（薬用植物資源研究センター 品種登録、国産生薬(株)との契約栽培）の生育状況を見学する。	村中 吉宏 林 茂樹 白井 清太	合同会社 むらなか 薬用植物資源研究セン ター 国産生薬株式会社
	16:10-16:40 (30分)	移動(バス利用) →名寄駅前	初日解散	事務局	
9月16日 (金)	9:00-10:00 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者コー スと今後の国内栽培につ いて	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協 会生薬国内生産検討 班長
	10:10-11:20 (70分)	〔講義〕 薬用作物の栽培技術に ついて	地域の生産者からの要望の高い栽培技術について解説する（カンゾウ、シャクヤク、ハトムギ等）	林 茂樹	国立研究開発法人 医 薬基盤・健康・栄養研 究所 薬用植物資源研究セン ター北海道研究リーダ ー
	11:30-12:00 (30分)	〔講義〕 ハトムギ品種 北のはと 生産と販売	国産生薬(株)は日本産薬用農産物の契約栽培の買取主体であり、それらの契約販売を生業としている。ハトムギ品種「北のはと」の利用権許諾を受け、この品種を主体とした生産・加工・販売の取り組みを紹介する。	白井 清太	国産生薬株式会社 代 表取締役社長
	12:00-13:00	昼 食			
	13:00-14:30 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地 形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	